

神み空第 60 号  
平成 22 年 9 月 3 日

社団法人日本航空機操縦士協会  
会 長 大 内 学 様

神戸市長 矢田 立郎



## 神戸空港における航空機の運航の 安全確保について

神戸空港は、平成 18 年 2 月の開港から累計で 1,100 万人を超える利用をいただき、関西の新たな玄関口として定着しつつある都心に近接した海上空港であり、定期便以外に年間 1200 回を超える小型機の着陸があり、小型機のパイロットにも親しまれている空港です。

しかしながら、平成 22 年 8 月 23 日、神戸空港に小型機が胴体着陸したことにより、開港以来はじめての航空事故が起きてしまったことは、誠に遺憾であります。

また過去に 2 度、小型機が管制の指示を勘違いして、無許可で離陸してしまうという事案もありました。

このたびの事故の原因については、運輸安全委員会において調査中ですが、小型機等の運航者は、他の公共交通機関と同じく、相当な社会的責任を負っているという認識のもとに運航していただくべきだと思います。

運航に係わる規定・手順の遵守等を通じて、運航の安全確保について万全を期するよう、傘下会員に改めて注意喚起されますようお願い申し上げます。